

1 実施概要

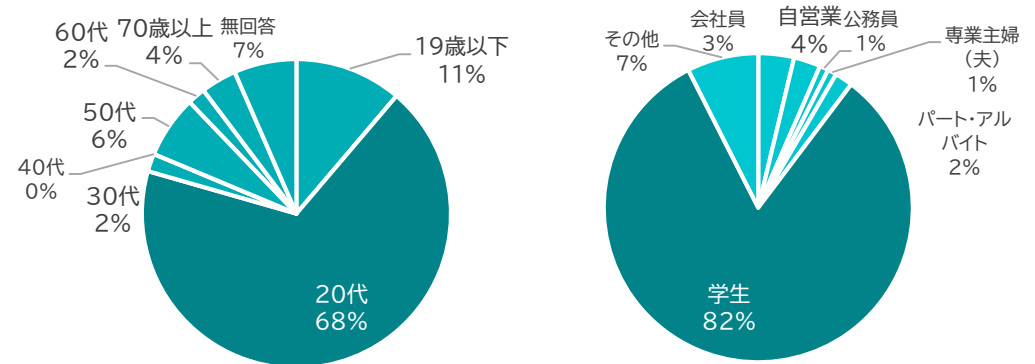
実施期間 令和4年11月25日（金）～12月26日（月）
 周知方法 市政情報コーナー（各区）
 市民自治推進課窓口、市民活動センター（2か所）
 生涯学習施設（37か所）、広報しずおか
 静岡市webサイト、報道機関への情報提供
 市政出前講座、市主催ワークショップ等
 提出方法 郵送、FAX、持参、電子申請

市民活動をテーマとしたワークショップを各市民活動センターにおいて開催することで積極的な周知を図りました。



2 実施結果

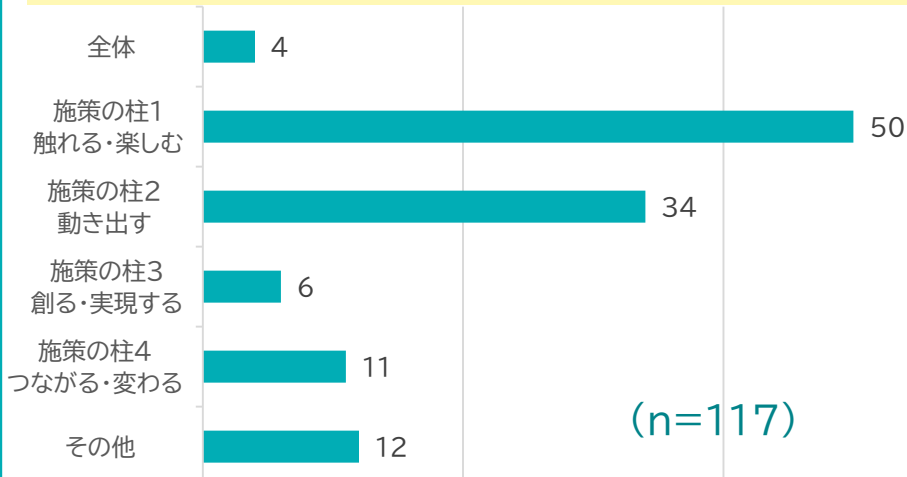
意見提出人数 107名(意見数117件)



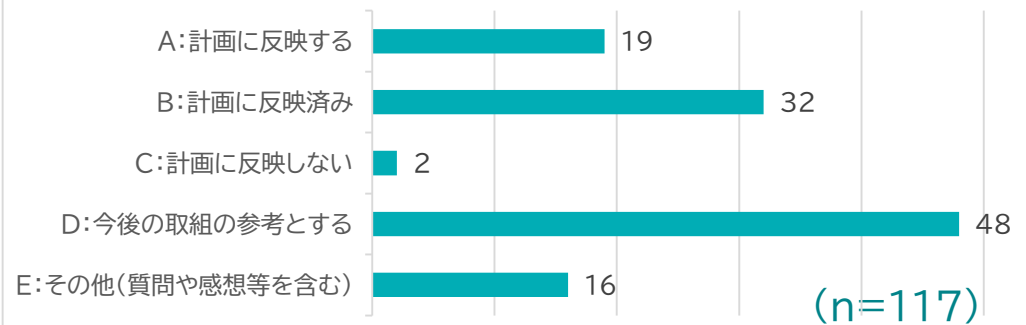
実施期間中、2つの大学において講義の中で時間をいただき計画の説明及び意見募集を呼びかけた結果、多くの若い方々からご意見を頂きました。

3 意見の内容

意見のあった箇所による分類



意見に対する市の考え方による分類



4 意見を計画に反映した箇所

※このほか、様々な視点からご意見やご感想をいただきました。個々の意見については別紙に掲載しています

意見の要旨	※趣旨を変えない範囲で要約しています。	キーワード	反映の内容（下線部分を追記）
<ul style="list-style-type: none"> ○「実際に体験し、交流し、楽しむことができる場」とあるが、何について楽しむ場なのか、その内容が重要。 ○「市民活動に関する情報」という大きな括りだけではなく、目的や対象に合わせた情報提供のあり方を考えていく必要がある。 ○多くの市民が、触れて楽しむ事は大切なことだが、一部の人がしか触れていないように感じる。【ほか1件】 		相手に合わせた情報発信	施策の柱1 （1）市民への情報の広がりへの支援 <u>届けたい相手に応じた内容や手法によって</u> 、行政が積極的に情報を発信することはもちろん、市民活動団体や市民が、お互いに情報を出し合い、社会全体へ伝えることができるような環境づくりに取り組みます。
<ul style="list-style-type: none"> ○小学校や中学校のカリキュラムの中に、市民活動について学び、体験する場をもっと用意すべき。 ○学校の授業（小・中・高・大問わず）で実際にやってみることで、どのような活動なのかを周知してもらうとともに、自分も市民の一人だという自覚を持ってもらう。【ほか6件】 		学校との連携 子ども・若者	施策の柱1 （2）市民活動を身近に感じられる機会の創出 情報だけではなく実際に体験し、交流し、楽しむことができる場、市民活動に対する興味・関心を醸成する場、シチズンシップを育むための学びの場、行政や市民活動団体等との対話の場といった機会の創出に取り組みます。 <u>また、取組にあたっては、学校と連携を図る等、子ども・若者へのアプローチを積極的に進めていきます。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○パブリックコメント自体が知られていない。身近に感じている人が増えるよう工夫が必要。フィードバックが欲しい。 ○学生が、市に対して、意見を述べる場が頻繁にあればと思う。 		市民参画	施策の柱2 （1）多様な主体が日常的に市民活動に参加できる環境づくり 年代や性別、国籍、障がいの有無、社会的な立場や属性、ライフスタイルに関わらず、地域や社会に関心をもって自発的に市民活動に参加したり、企業等による社会貢献活動が促される環境づくりに取り組んでいきます。 <u>なかでも、市民が主体的に意見を表明することを通じた市政への参画も市民活動の一つとして捉え、パブリックコメントをはじめとする市民意見聴取とその結果のフィードバックについて、様々な機会を通じて周知していきます。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○異なる世代・組織の人が関わり合っ交流したり、意見交換する場を設けたり、そのような人々をつなぐ取組はとても大切でまちづくりには欠かせない。 ○市民活動団体と学生サークルの交流会を、大学等で開催できるとよい。そうすることで市民活動団体と学生サークルの協働のきっかけとなり、市民活動団体の後継者が生まれるかもしれない。 ○次世代につなげることは非常に難しい。年代ごとの考え方が相違する。若い世代は有償ボランティアを希望する人が多く、働いている人を取込むためには土曜、日曜、夜などの取組が必要。 		つながる次世代	施策の柱4 （2）活動を次世代につなげるための支援 市民活動を持続的なものとするため、世代間をつなげていく取組を進めていきます。 <u>また、直接的な後継者育成支援に限らず、団体同士の新たな連携等をコーディネートや異なる世代や組織の交流の機会の創出を進めていきます。</u>

上記のほか「イラストを挿入すべき」という意見（1件）、「計画そのものを周知していくべき」という意見（1件）についても、計画書や概要版の作成において反映させる予定です